病児保育協議会
NEWS
一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ http://www.byoujihoiku.net/

第87号
2017年（平成29年）4月1日
〔発行人〕 会長 大川洋二（大川こども&内科クリニック）
〔発　行〕一般社団法人 全国病児保育協議会事務局
〒160-8306
東京都新宿区西新宿5-25-11-2F ㈱日本小児医事出版社内
FAX.03-5388-5193

まいど！ おおさか大会

第 26 回全国病児保育研究大会 in 大阪 実行委員長　原田　佳明
協仁会小松病院 病児保育所つくし

協議会の皆様に、「第27回全国病児保育研究大会 in 大阪」のお知らせとご挨拶をさせて頂きます。実行委員長の協仁会小松病院・病児保育所つくしの原田佳明です。期日は７月16日（日）・17日（月・海の日）で、会場は大阪市中央公会堂とAP大阪淀屋橋です。大阪市中央公会堂での開催は、2006年の第16回研究大会に次いで２回目となります。本稿では進捗状況と大阪支部の紹介をさせていただきます。開催まで３か月となり、大阪支部会を挙げて、大会事務局の社会医療法人真美会中野こども病院を中心に準備を進めています。

大会ホームページ（http://web.apollon.nta.co.jp/hoiku2017/index.html）を閲覧戴いた方も多いことと思います。今回の大会テーマは「これからの病児保育－大切にしたいこと、始めていくこと－」です。病児保育は、1966年に東京で開設された「バンビ病気明け保育室」を嚆矢に、1969年に枚方市で保坂智子先生が「枚方病児保育室」を開設され、1973年に寝屋川市で「病気あけつくし保育所」が開設しました。1991年に、帆足英一先生を班長に「小児有病児デイケア」に関する研究班が発足し、枚方市の保坂智子先生を中心に全国から14か所の施設が枚方市に集まり、「全国病児保育協議会」が結成されました。初期の研究大会は万博記念公園近くのホテルサンパレスで開かれていました。会頭要望シンポジウムでは協議会を現在の隆盛に導いたレジェンドの先生方に「これからの病児保育－大切にしたいこと、始めていくこと－」についてご講演を頂きます。

本誌第83号に掲載された早川宏史先生の巻頭言にありましたように、大会運営に関しては全国病児保育協議会から支出戴く大会運営経費と参加費以外から運営費を得ることが困難になりつつあります。企業協賛に関しては、近年は各社とも医薬情報担当者は関与せず、寄付金事務局に所定の手続きをする規約になっています。主催者からの申請の上で審議する仕組みですが、実際には前例踏襲主義でどの企業も新規を認めることはないとのことです。社会貢献やメセナの視点から、病児保育事業が両立支援に必要不可欠な社会的基盤と広く認知されるよう、組織的で恒常的な取り組みが必要と感じました。大会運営や懇親会のあり方に関しても、原点に立ち戻った見直しが必要と思われます。ランチョンセミナーは初日に設定し、２日目は11:30 ～ 13:00のポスター発表会場にサンドウィッチを用意しました。会場周辺の中之島界隈は、NHK連続テレビ小説「あさが来た」のゆかりの地で、五代友厚像や緒方洪庵の適塾などがあり、カフェでランチを取りながらの歴史散歩も良い選択と思います。周辺マップを用意致します。

大阪支部会では、36の会員施設で構成し、年に１回の総会と３回の定例会を開催し、支部通信を年に３回発行しています。昨年に第10回支部総会を開催しました。課題としては、大阪の多くの大学附属病院や公的私的病院で病児保育所を運営していますが、組織化ができていないことです。病院病児保育所の実態の解明と協議会加盟による具体的なメリットが必要と考えます。今回の研究大会では、総会、定例会メンバーを中心に、９つのワークショップが企画されました。既に全てのワークショップが定員となり、参加を希望されていた皆様にはお詫び致します。

大阪大会が良い研究大会となり、病児保育事業を未来に繋いでいけるよう、協議会皆様の多数のご参加をお願い致します。７月16日、17日は夏休みの初日に当たり、USJなど有力な施設の多い大阪のホテルは直前の宿泊予約が取り難くなります。早目の事前登録と宿泊予約をお勧め致します。大阪大会まで３か月余りとなりましたが、何卒宜しくお願い致します。

〔大会ホームページ〕
http://web.apollon.nta.co.jp/hoiku2017/index.html

第13回 全国病児保育協議会 あいちブロック交流集会

秋の晴天の日、名古屋駅近くのウインクあいちで開催いたしました。愛知、三重、岐阜、静岡より36施設110名の参加でした。

愛知県支部長の松川会長の挨拶ではじまり、昼食をとりながら、愛知県支部の会計報告、施設紹介を行いました。

＜特別講演１「発達障害への理解と対応」～病児保育を中心に～＞名古屋市発達支援センター浅井朋子先生に講演していただきました。内容は①発達障害②認知の特徴③病児保育での工夫。病児保育ならではの条件、年齢層や病状がばらばら、情報が不十分、本来の体調でないため問題行動が生じやすい、特別な一日でること、継続的な経験を積む場でないなどの条件のある中、こどもが安心・安全・落ち着いて過ごせるような工夫が必要。こどもの理解できる環境作り、感覚過敏への対応。立つ場所を伝える。空間を作ってやる。言葉かけや指示は具体的に、文章は肯定文で表現。ゆっくり落ちついたトーンで話しかける。パニックへの対応、①動揺期では怒らないよう介入、②爆発期では本人と周囲の安全に留意、おさまるまで待つ。③回復期では感情を共有、何がしたかったのかを聞いて、どうしたらよいかを具体的に教える。というようなまさに病児保育の場での具体な方法を講演していただきました。

＜特別講演２「リサイクル手作りおもちゃ」手作りおもちゃ作家いまいみさ先生＞の講演でみんなで製作をいたしました。折紙、トイレットペーパーの芯、牛乳パックを使った、簡単に作れる作品をみんなで製作しました。同時進行で13階にて、松川先生の座長による＜施設長懇談会＞を開催しました。どちらも大変好評でしたが、時間不足との声が多数ありました。

＜特別講演３「熊本の震災を経験して」＞熊本のみるく病児保育室永野和子先生に講演をしていただきました。東海トラフによる大規模地震が想定されているなか、みな真剣に実際何が役に立ち、何が必要かをお聞きし、これからの対策を考えていくうえでも役立つお話でした。ＢＧＭの「紙風船」をながしながらのビデオはとても感動的でした。みるく寺子屋のお話は災害時でも子育て支援をし続けるという素晴らしいみるく病児保育室に大変感動いたしました。感動のあまり号泣している人もおりました。遠路はるばる講演にきていただいた永野先生に感謝の気持ちでいっぱいでした。また、この講演は三重の羽根先生・二宮先生のご提案とご尽力、費用援助でおこなったことも報告させていただきます。

最後に**＜分科会「病児保育室での水分摂取」＞**を座長プチポケットの市坪先生でおこないました。事前のアンケート調査の結果報告のあと各施設よりの発表がなされました。

盛りだくさんの内容になってしまったため、時間不足の意見もありましたが、おおむね満足していただけたようです。

文責　なずな病児保育室　前田

千葉県・千葉市 支部研修会報告

ご報告が遅くなりましたが、平成28年９月22日（木・祝日）、京葉銀行文化プラザにて、第７回千葉支部研修会を開催いたしました。100名の病児保育スタッフが参加し、大変熱心に研修する時間を共有することができました。

おおた小児科・病児保育室ミルキーの太田文夫先生からは、予防接種アップデートの題で、流行中の麻疹、予防接種が変更になったＢ型肝炎、水痘などについてお話いただきました。

続いて、病児保育専門士の２名の方から演題のご発表をいただきました。

①まなこどもクリニック ポピンズルーム 小坂暢子：要支援家族の地域支援 病児保育室にできること

②（医）蘭寿会 佐野医院 オーキッズ　岡　幸子
富永由美子：子どもの服薬についてーお薬のめるかな？

それぞれの発表は、専門士として学んだ内容が生かされた、専門性の高い発表でした。

続いて、さとう小児科・バンビーノの佐藤里美さんより、感染症：標準予防策についての講演、杏林製薬による手洗い実習がありました。

最後に、グループで**＜うちの保育室のよいとこPR！＞**と題してフリートークをする時間をもち、大変盛り上がりました。施設長会議では、施設長が抱えている経営面や運営面について、忌憚のない意見交換ができました。来年度も同じ時期に支部研修会を開催予定です。

全国病児保育協議会千葉県支部長　**原木　真名**
ポピンズルーム

第12回 全国病児保育協議会 愛媛支部会報告

第12回全国病児保育協議会愛媛支部会は、平成28年６月19日松前町総合福祉センターで開催されました。

開会の挨拶の後、午前中は『病児病後児保育に整備すべき帳簿書類と見直し』と題し、参加した施設が現在使用している各種帳簿や書類を持ち寄り、他の施設の方と討論できるようグループワークを行いました。書類毎、テーマ毎にテーブルに別れて活用方法を比較検討し、随時グループで話した内容を皆に発表いただき、自治体・施設ごとの書類様式や活用運用法の違いや事業実施における課題を共有することができました。

病児保育事業が始めた後は帳簿書類を見直したり、修正したりすることが少ない中、運用見直しや修正アイデアを考える良い機会にもなりました。

これから病児病後児保育を始めようとする施設・自治体の参加もあり、グループワークに参加いただくことで事業実施の具体的な流れを知り、実施施設からアドバイスを受ける機会にもなったと思います。

午後からは、『保育リスクマネジメントの理解と活用～「見える」「気づける」「考える」事故の予防～』と題し、社会福祉法人 八越会 ちどり保育園 吉岡敦志先生に保育現場における事故リスクマネジメントの理論の講演と、グループワークで保育場面で実際に起こった事故やインシデントをもとに具体的な実践方法、管理運営方法を学びました。

災害対策についても、発生した当時の状況を教訓に具体的な備えと対応法を学ぶ良い機会となりました。

８施設（うち協議会加盟５施設）28名（保育士12名、看護師８名、医師４名、行政職員４名）と小さな会ではありますが、お互いの顔が見え、話のしやすい雰囲気で愛媛支部会は運営されています。

全国病児保育協議会愛媛県支部長　**藤 枝 俊 之**
病児・病後児保育ルームエミリア

第3回 静岡県支部（研修・交流）会報告

平成28年12月３日土曜日午後に、静岡市駅ビル「パルシェ会議室」において第３回静岡県支部会を行いました。計20名の参加でした。

プログラムは①自己紹介、②ワールドカフェ「保護者の意見をどう活かすか ～保護者からの嬉しかった一言、はっとした一言」、③各施設の工夫、勉強したこと、プチ研究発表と意見交換（おんぷ、さくらんぼルーム15分ずつ）、④講演「保育室での安全対策」担当：北西史直、「小児のお薬について」担当：櫻町俊二先生、⑤懇親会でした。

①昨年度と比べ参加者の総数は減りましたが、新規加盟施設２か所の参加、東は伊東、西は浜松からと県内幅広く参加がありました。

②保護者からのフィードバックをどう受け取め、どう対処しているかワールドカフェのスタイルでディスカッション（ダイアログ）しました。今回２度目のワールドカフェ形式で、前回より対話がスムーズにいきました。「他の子から病気がうつるか心配」「ありがたいという感謝の言葉」「同じ先生がいて安心した」などの言葉があったようです。クレームに近いようなネガティブフィードバックはあまりないようでした。

③「おんぷ」からは「小児の服薬支援」という題で、小児によく使われるお薬の主に、薬の味と飲ませ方について、発表とディスカッションがありました。「さくらんぼルーム」からは「登録の工夫」ということで、保育室登録の時の説明と書類の工夫について、発表とディスカッションがありました。

上記以外にも病児保育運営についてのディスカッションがありました。

④医師によるミニレクチャを行いました。「死亡、重傷、後遺症といった深刻な事象がおこらない環境を」「“私たちの園では起こらない”は偽りの安心」「園全体でも安全対策」「リスクマネジメント、SHELL、危険予知トレーニング」「小児に使う薬は比較的シンプル」「小児には使えない薬がある」「処方箋の記載法」「薬の飲ませ方、混ぜ方の注意」「薬にまつわるトラブル」などのお話がありました。

⑤ミニレクチャ終了後、食事をしながら、懇親を深めました。

昨年度より少ない参加者でしたが、静岡駅ビルというアクセスの良い場所で開催でき、参加者の満足度は高かったようでした。引き続き少なくとも年に１回は開催を続け、静岡県の病児保育の発展につなげていきたいと思っております。

全国病児保育協議会静岡県支部長　**北西　史直**
病児保育室おんぷ

第27回 全国病児保育研究大会 in大阪

これからの病児保育 ―大切にしたいこと、始めていくこと―

会　期　2017年7/16(日)・17(月・祝)

会　場　大阪市中央公会堂・AP大阪淀屋橋

会　頭　木野　稔（社会医療法人 真美会 中野こども病院　理事長）

実行委員長　原田　佳明（医療法人 協仁会 小松病院）

主　催　一般社団法人全国病児保育協議会

事務局　社会医療法人 真美会 中野こども病院　運営事務局　(株)日本旅行西日本MICE営業部

大会ホームページ　http://web.apollon.nta.co.jp/hoiku2017/

◆ 第27回 全国病児保育研究大会 in 大阪 広報の部屋 ◆

施設紹介写真と「たいせつにしていること」「始めていきたいこと」を大募集!!

大阪会場広報の部屋でみんなでつながりましょう!

「たいせつにしていること」「始めていきたいこと」でつながろう！

応募作品の中から抽選で商品券をプレゼント！

①施設を紹介する写真

保育室、遊びの様子、施設長、スタッフ、自慢の手作りおもちゃなど。応募シートに印刷又は写真Ｌ版（貼らずに同封）

②30字程度までのコメント

いずれかひとつ。写真との整合性は問いません。

○子どもたちと過ごすときや家族と接するときに「たいせつにしていること」

○これから施設で「始めていきたいと考えていること」　※手書き可

ニュース87号に同封の応募用紙で送ってください。

【締め切り】６月16日（金）

〔送り先〕
〒577-0802 東大阪市小阪本町１-11-３
病児保育室こひつじ

封筒に「広報の部屋」と明記してください。

注：応募用紙、写真は返却しません。
個人情報の保護については各施設で確認をお願いします。

みなさまからのご応募、お待ちしております！

協議会からのお知らせ

病児保育施設一覧掲載情報確認ならびにメールアドレス登録のお願い

今回のニュースに同封しております。前回の調査で提出されていない施設は、必ずご協力ください。よろしくお願い致します。

編集後記

７月の大阪大会に向け、広報委員会も後押しに力を入れてまいります。次号は大会直前号。より詳しく大阪大会をご紹介する予定です。

また、各県にある支部の活動が活発になることを願っています。事前に企画書を提出することで支部研修会には協議会から補助が出ます。そして終了後にはぜひ、協議会ニュースで各支部の活動を紹介させてください。

（広報委員長　藤本　保）

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会

担当：藤　本　　保

〒870-0943 大分市大字片島83-7
大分こども病院
FAX.097-568-2970
E-mail:byouji@oita-kodomo.jp

Printed by AIKOHA